



優劣のあなたに

Desire Beyond You

永田 円了

一度に射精される精子の数は5億とも言われる。この精子軍団は熾烈な競争を経て卵子にたどり着き、その内のたった一つの精子のみが卵子に受け入れられ生命の誕生となる。人間、いや全ての動物はこのような競争の宿命を背負って生まれてきているのである。

競争原理 vs. 共生原理

明治に入るまで、日本にはまだ「競争」というコトバは存在しなかった。米国からきた *competition* という英語に、福沢諭吉が「競争」という訳語をつけて定着したものである。

この競争のお陰で、日本の文明は進歩した。自家用車、冷蔵庫、テレビ、電話など生活面での便利さは枚挙にいとまがない。しかし、この競争原理の果てにあるのは、金、権力、成功を我がものにしようとする Win-Lose、一人勝ちゲームの展開である。人間の欲望が競争を招き、競争が格差を生み、格差は人間同士の争いを引き起こす。

私たちは、この人間本来の欲望に身をまかせ「適応」を選ぶべきなのか、それともこの欲望に「対応」する意識をもつべきなのか。



適応か、対応か



人間社会に最初の貨幣が登場したのは、紀元前4000年といわれる。それまでの社会は、全ての獲物を平等に分け与えて生活をする村社会、横並び平等主義が仕切っていた集団社会であった。そこに貨幣が登場する。すると、個人の力に応じた分け前を得ようとする競争原理に火がつき、力のある者がより多くの富を手にし、現在の格差社会が生まれたのである。

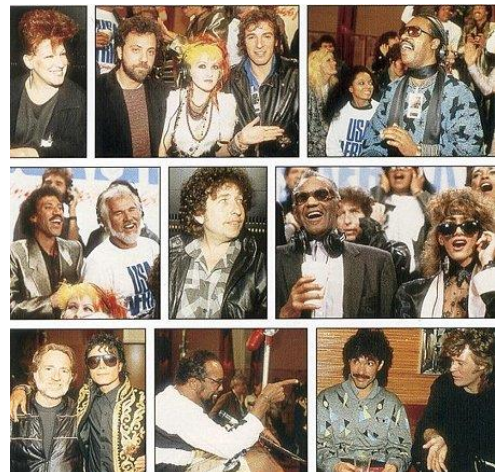
では、昔の村社会に戻れば幸せになれるのか。いやそうはいかない。いったん目を覚ました競争社会は、勝ち負けのハラハラゲームが展開し、もはや退屈な横並び平等主義の社会には逆戻りはできない。では、この社会に本能のおもむくままに「適応」していいのだ

ろうか。

否、「対応」すべきであろう。エゴに仕切らせてはいけないのである。人間には“気づき”というエネルギーがある。競争というエゴエンジンが全開しそうなとき、気づきという別次元のエンジンとブレーキが作動し、バランスをとるようにできている。

私たちにできることは、この“気づきエンジン”がいざ適時に作動できるよう、たえず緊張感とコーチャビリティを高めて、人生舞台に登ることが要求されているのである。

We are the world



自分のエゴは入り口で捨てなさい

<事例 DVD>

5億の精子 / 柳沢桂子
 福沢諭吉が、Competition を『競争』と名づけた / Bush 演説より
 NHK スペシャル / そしてお金が生まれた
 お金が人間をどう変える / お金を欲しがらる脳のおもしろい
 借金帳消し制度 / ラトガーズ大の実験
 サルの世界にボスなどいない / 伊澤紘生
 縄文文化では、なぜ稲作をしなかったのか
 宮台真司 / 価値の一元化ではなくて
 内橋克人 / 適応から対応へ
 クローズアップ現代 / 無月経・疲労骨折
 玉三郎・鼓童 / 競争を自分を磨くためのハードルとして
 大村はま / 同じ教材を二度つかわない
 澤 穂希 / 比べない / サッカーが楽しくて
 三島由紀夫 / 人間は自分のためだけに生きることに卑しさを感じる
 日本生命のコマーシャル / 愛だけは、、、
 歌・We Are The World

円了のホームページ: www.enryo.jp